

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 14 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520875

研究課題名(和文) 8～10世紀東アジア外交文書の基礎的研究

研究課題名(英文) A fundamental study of diplomatic documents from 8th to 10th century in East Asia

研究代表者

金子 修一 (KANEKO, Shuichi)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：60093952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、8世紀から10世紀を中心に、日本と渤海・新羅及び中国との間の外交文書について、諸写本を調査して校訂したテキストを作成すると同時に、古代東アジア諸国の対外関係史に関する新たな成果を提示することである。その成果として、平成26年1月26日には「古代東アジア・東ユーラシアの対外交通と文書」と題するシンポジウムを開き、また『訳註日本古代の外交文書』(八木書店、2014年2月)を刊行した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study has been to make revised texts of diplomatic documents between Japan and Bohai, Silla and China from 8th to 10th century, to make annotation on these texts. We have presented new views of foreign-relation histories in ancient East Asia. The first achievement of this study is the enforcement of symposium "on the foreign trade and foreign policy in ancient East Asia and East Eurasia"(2014.1.26). And the second achievement is publication of the Book "Diplomatic Documents concerning ancient Japan with notes and modern Japanese translations"(Yagi-Publisher, Tokyo, 2014.2).

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学、東洋史

キーワード：外交文書 国書 日本 渤海 新羅 古代中国

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 2001年度から、本研究代表者金子修一、連携研究者石見清裕及び鈴木靖民・廣瀬憲雄・赤羽目匡由、また若手研究者の浜田久美子・中野高行・皆川雅樹・河内春人等の諸氏と、古代日本と渤海との外交文書の読解を中心とした研究会を続けてきた。その読解が最終段階にさしかかったところで、科学研究費を得て、読解を続けてきた各史料について本格的なテキストを作成した上で、そのテキストに基づく訳註を作成し、書物として公刊しようと計画した。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は8世紀から10世紀を中心に、日本と渤海・新羅及び中国(南朝宋から唐)との間の外交文書について、諸写本を調査して校訂したテキストを作成し、そのテキストに基づいた註釈を作成すると同時に、古代東アジア諸国の対外関係史に関する新たな知見、新たな成果を提示することである。

(2) 日本と渤海・新羅などの国々との間の外交文書は、ほとんどが日本の古典籍に収められている。そうした古典籍には写本として伝存しているものも多いが、従来の注解はおおむね国史大系に依拠して行われてきた。しかし、国史大系本も刊行されてから長年月が経っており、その底本とその他の諸写本との綿密な校勘は、これまで充分には行われてこなかった。そこで本研究では、初めに関連史料の網羅的な校勘を行い、ついでそうしてできあがったテキストを元に、上に挙げた研究者やその他の若手研究者・大学院生との会読によって、古代東アジアの外交文書に関する理解の深化を図ることとする。

### 3. 研究の方法

(1) 3年間の研究期間を設定し、特に初年度は全国の図書館等で史料の収集に当たる。必要な写本のうち、影印本の刊行されているものについてはそれを利用し、関係所蔵機関においてマイクロ紙焼きが購入できるものは購入する。その上で、若手研究者を中心に写本班を結成し、収集した史料の校訂作業を行う。その校訂作業に拠って作成した史料に基づいて、史料会読の研究会を3年間に亘って続け、最終的に出版に向けての原稿を作成する。

写本の調査を行い、マイクロ紙焼きを購入した所蔵機関は以下の如くである。(これらの機関を通じて他の機関のマイクロフィルムや写真帳を活用した場合も含む)

宮内庁書陵部・内閣文庫・尊経閣文庫・静嘉堂文庫・お茶の水図書館成貨堂文庫・東京大学史料編纂所・国文学研究資料館・国立歴史民俗博物館・蓬左文庫・神宮文庫

(2) 研究会は1,2箇月に一回のペースで行った。当該外交文書の発信された経緯を明らかにし(【概要】)、上述の作業で校訂さ

れた史料の本文を確認し(【本文】)、校勘の結果を示し(【校異】)、読み下し文を作成して(【訓読】)必要な註釈を加え(【語釈】)、現代語訳を作成した上で(【現代語訳】)、そのテキストの歴史的特質を明らかにする考察を行った(【考察】)。また、以上の諸作業の典拠となる参考史料を最後に掲げた。

(3) (2)の【概要】以下の【 】内の項目を、本研究の成果として刊行した『訳註日本古代の外交文書』に反映させた。原稿の作成に当たっては、研究会における会読の結果に基づいて各項目の担当者が元原稿を作成し、その後の研究会において出席者がその原稿を再検討した上で、最初の担当者を中心に最終原稿を作成する過程を繰り返した。【語釈】や【考察】の一部については、当該項目の担当者以外の、より専門に近い研究者が執筆した場合もある。

なお、本書の冒頭には古代東アジアの外交儀礼や外交文書の概要を解説した、金子修一・石見清裕・浜田久美子執筆の「総論」を置いたが、その内容も研究会参加者で検討した。

### 4. 研究成果

(1) 上述のように、本研究の目的は8世紀から10世紀を中心に、日本と渤海・新羅及び中国との間の外交文書について、諸写本の調査に基づくテキストに拠った註釈を作成すると同時に、古代東アジア諸国の対外関係史に関する新たな成果を提示することである。その成果の一つとして2014年1月26日に「古代東アジア・東ユーラシアの対外交通と文書」と題するシンポジウムを開いた。その内容は以下の如くである。なお、当日は百人近い参加者があった。

外交文書にみる渤海と古代の日本 浜田久美子(国会図書館)

張建章墓誌と『渤海国記』に関する若干の問題 古畑徹(金沢大学)

中国北朝における和蕃公主の降嫁について 藤野月子(九州大学)

会盟よりみた唐代の国際秩序 榎本淳一(工学院大学)

唐の対外交流と通行証 荒川正晴(大阪大学)

日宋関係 森公章(東洋大学)

(2) また第二の成果として、平成25年度科学研究費助成事業(研究成果公開促進費、課題番号255081)の交付を得て、平成26年2月には『訳註日本古代の外交文書』(八木書店、2014年)を刊行した。研究開始当初は、本研究に関係する外交文書の総数を40篇と見込んでいたが、研究が進むにつれて取り上げるべき関連史料が増え、最終的に本書で訳註を作成した外交文書は50篇に登った。

(3) 以下に述べる本研究で得られた成果及び今後の課題については、『訳註日本古代の外交文書』に関わる成果及び課題に代表させて記した。

本書で訳註その他を施した外交文書は古代日本のみならず、同時期の中国や朝鮮の歴史理解にも関係している。今日では中国や韓国でも、日本人の研究者が提唱した冊封体制という学術用語も広く用いられるようになり、古代東アジアの国際関係に関する研究者の関心、あるいは共通理解は増している。しかし中国や韓国では、綿密な校勘作業を経たテキストに基づく史料の註釈作業は余り行われていない。本書に収録した国書は古代中国・古代朝鮮にも関係するものであるが、そのほとんどが日本の古典籍に記載された史料である。したがって、本書の成果は、中国や韓国の研究者にとっても有益である。

訳註の作業には、日本に留学した韓国の若手研究者（鄭東俊・鄭淳一）も参加した。彼等は既に帰国して、韓国で研究者として活躍している。また、執筆はしなかったが研究会に参加して、本書の索引作り等の作業に尽力した若手研究者には中国や台湾の留学生もいる。その点からも、本書の内容が中国や韓国でも関心と呼ぶことは明らかである。日本人の研究者も含めて、本書の内容の検討やその出版に関わった経験が、今後の東アジアの学术交流に役立つことは間違いない。

本書の日本人の執筆者は、日本古代の海外交渉史の研究者や渤海史の研究者を始め、中国史研究者や契丹史・遼史の研究者まで幅広く含まれている。また、本書の扱った時代は5世紀から10世紀に及んでいる。10世紀は、中国を始めとする東アジアや日本の国際環境が大きく変化する時代であり、その変化の歴史的意義を把握するのに幅広い知見を必要とする。扱う時代や執筆者の専門の幅の広いことから見ても、以上のような日本を始めとする古代の転換期に対する幅広い関心に対して、本書の内容が充分に応えるものであることは明らかである。

本書では、主に天皇と渤海王や中国皇帝との間の国書を扱ったが、10世紀以降の東アジアの国際関係が多様化する中で、外交文書のあり方も多様化する。今後の問題として、君主同士以外の様々な外交文書の掘り起こしと解読とを行い、東アジアにおける外交文書の多様なあり方の理解を深めていく必要がある。その点では日本と宋との関係に関わる史料ばかりではなく、従来あまり注目されなかった高麗時代の文献に取り組むことも必要となるのではなからうか。

本研究の代表者である金子修一は、漢から唐に至る皇帝の祭祀・儀礼の変化の歴史的意義を究明することも研究課題としているが、そのような課題は、日本における中国律令制の受容の一環として、儀礼の受容と変容との問題にもつながる。また、本書の編者の一人浜田久美子は、外国使節に応待する時の儀礼である賓礼の、古代日本における実相に関する研究にも取り組んでいる。賓礼の基本は、国々の上下関係を各時点における儀礼で表現する所にあるが、国書その他の外交

文書の内容や用語にも、種々の形で関係諸国の上下関係が反映している。本書でも賓礼研究の成果の一端は取り入れているが、日本や中国・韓国でも賓礼を含む古代の儀礼研究は緒に就いたばかりである。今後は、本書のような文書研究と、その背後にある儀礼研究との結びつきを図る必要もある。

また、本研究の第一の成果として挙げたシンポジウムの題が「古代東アジア・東ユーラシアの対外交通と文書」であるように、近年では特に東アジア世界のみを取り上げるのではなく、より包括的に遊牧地域を含めた範囲で国際関係を見直そうとする動きが盛んである。そのような、10世紀までの東ユーラシアの国際関係・外交交渉の特質を考える上でも、日本の古典籍における外交文書を網羅的に取り上げた本書の成果は極めて有益である。

(4) 以下には、本研究で成し得なかった今後の課題について触れておく。

本研究では、各国の文書に盛り込まれた内容から、該当する時期の国際関係の在り方の考察を積み重ねていったが、北アジアの遊牧地域を含めた範囲の国際関係の中で日本と東アジア諸国との国際関係の特色を考えようとするならば、漢字以外の文字で表現された文書、あるいは匈奴のように文字を持たない諸国、契丹のように文字の解読されていない諸国も含めた国際関係を考慮しなければならなくなる。

その場合、どのような方法論が有効であり、また普遍性を持つのかを探求しなければならなくなるが、北アジア史・中央アジア史の研究者の成果を、より身近な研究として咀嚼していくことも必要になってくるであろう。本研究会に参加したメンバーの中には契丹・遼の研究者もいるが、メンバー各自がそれぞれの分野を深めながら、日本史における新たな課題を一方で見据えつつ、東ユーラシア的な広がりを持つ視野を獲得、維持していくことが、今後必要になって来るであろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

金子修一、禰氏墓誌と唐朝治下の百濟人の動向、日本史研究、査読無、615 巻、2013、pp.103-120

鈴木靖民、東アジアの中の古代日本と吉備、岡山の自然と文化、査読無、32 巻、2013、pp.228-249

廣瀬憲雄、皇極紀百濟関係記事の再検討、日本歴史、査読無、786 巻、2013、pp.1-16

赤羽目匡由、契丹と渤海との関係、アジア遊学、査読無、160 巻、2013、pp.70-75

石見清裕他、ソグド人漢文墓誌訳注(9) 西安出土「安伽」墓誌、史滴、査読有、34 巻、2012、pp.138-158

廣瀬憲雄、渤海の対日外交文書について、  
続日本紀研究、査読有、398 巻、2012、pp.1-17  
廣瀬憲雄、東アジア世界論の現状と展望、  
歴史評論、査読無、752 巻、2012、pp.4-13

〔学会発表〕(計 3 件)

金子修一、唐代における皇帝の喪葬儀礼の  
日程について、日本史研究会古代史部会、  
2013 年 9 月 13 日、京都宣伝センター機関誌  
会館

金子修一、玄宗的祭祀和則天武后之関係、  
国際武則天学術研究会、2013 年 9 月 1 日、四  
川省広元市鳳台国際賓館(中国)

廣瀬憲雄、渤海の対日外交文書について、  
続日本紀研究会、2011 年 11 月 4 日、ホテル  
アウィーナ大阪

〔図書〕(計 6 件)

鈴木靖民・金子修一・石見清裕・廣瀬憲雄・  
赤羽目匡由・片山章雄・河上麻由子・河内春  
人・澤本光弘・新川登亀男・深津行徳・堀内  
淳一・李成市他、勉強出版、梁職貢図と東部  
ユーラシア世界、2014、558

鈴木靖民・金子修一・石見清裕・廣瀬憲雄・  
赤羽目匡由・河辺隆宏・近藤剛・澤本光弘・  
鄭東俊・鄭淳一・浜田久美子・中野高行・皆  
川雅樹・河内春人・窪田藍他、八木書店、訳  
註日本古代の外交文書、2014、421

廣瀬憲雄、講談社、古代日本外交史、254  
金子修一・稲田奈津子・江川式部・河内春  
人・野田有紀子・牧飛鳥他、汲古書院、大唐  
元陵儀注新釈、2013、428

廣瀬憲雄、吉川弘文館、東アジアの国際秩  
序と古代日本、2011、356

赤羽目匡由、吉川弘文館、渤海王国の政治  
と社会、2011、319

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 修一 (KANEKO, Shuichi)

國學院大學文学部教授

研究者番号：60093952

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

鈴木 靖民 (SUZUKI, Yasutami)

横浜市歴史博物館館長

研究者番号：20052160

石見 清裕 (IWAMI, Kiyohiro)

早稲田大学教育・総合科学学術院教授

研究者番号：00176562

広瀬 憲雄 (HIROSE, Norio)

愛知大学文学部人文社会学科准教授

研究者番号：50594058

赤羽目 匡由 (AKABAME, Masayosi)

首都大学東京都市教養学部助教

研究者番号：60598853